



『探す倉庫』から『見える倉庫』へ ——倉庫集約から始まった保管改善事例

2026年10月21日

商品をつくることは得意だった。しかし、保管することは別の課題だった。

「アパレルパーツを扱う当社では、荷物がA倉庫とB倉庫に分散し、必要な商品を探すたびに時間がかかっていました。床置きで保管していた段ボール箱も増える一方で、どこに置いたかわからなくなることも多々ありました」

そんな小さなロスが、彼らの日々の業務を少しずつ圧迫していた。

転機は、倉庫を一つに集約する決断だった。だが、荷物を集めるだけでは解決しない。限られた空間をどう活かすか。

——そこで提案されたのが、中量ラックと軽中量ラックによる立体保管だった。



床に広がっていた荷物は棚へ収まり、在庫は『見える化』された。探す時間は減り、紛失の不安もなくなり、作業者は本来の仕事に集中できるように。倉庫は、ただ物を置く場所ではなく、仕事の流れを生み出す場所へと変わった。

一つのラックが変えたのは、景色だけではない。現場で働く人の時間と、企業の未来につながる効率だった。倉庫改革とは、空間を整えることではなく、人の働き方を変える挑戦なのである。

